



竜巻の被害は猛烈でしたね・・・

猛烈な竜巻

五月六日、竜巻が茨城県つくば市や、栃木県真岡市などを襲った。七日の夕刊に、大変な被害状況が報道された。鉄筋コンクリートの電柱が倒れ、家々の屋根や、車が飛ばされた。被害者の痛々しい声も報道された。被害を受けた方はどうしているのか？人ごととは思えない。

政府はどうした？

しかし、いくら新聞を見ても、野田首相は消費税増税には言及しても「竜巻被害を救済」には言及していなかった。政府はこれまで大銀行や大会社が危機に陥った時には何かと理屈を付けて救済してきた。例えば、二〇〇九年には、政策投資銀行に一兆七千億円の公的

資金を注入し、最大十五兆円の大企業向け支援を上乗せしたりした。一方、被災者生活再建支援法では、全壊でも僅か百万円だけ。これでは生活再建どころではない。家が壊されたら応急住宅を用意し、屋根が飛ばされたら屋根を修復する・・・国が率先してやるべき事だ。

災害にはいつでも

原発災害では放射能汚染で家に住めなくなり、失業したり・・・大変な目にあっている。子供の被曝を恐れて「自主避難」もある。こうした災害には被災者本人が何の心配も無く、暮らせるようにする為に国家があるのだと思う。
皆さんはどう思われますか？

大須観音の骨董市

(名古屋市)



名古屋の中心部に「大須」という地域がある。南北の通りと東西の通りに洋服店、小間物店、食べ物屋が並ぶ。若い人からお年寄りまで沢山の人が混んでいた。

その中心にあるのが「大須観音」。元々は、岐阜県の羽島市の大須にあった。木曾川と長良川に挟まれた輪中地帯。一六一二年に、現在地に移転。その門前町が栄えて、今日の大繁華街となった。

寺そのものは、明治25年の大須の大火と第二次世界大戦の空襲で二度消失。一九七〇年に再建された。

訪れた日は丁度、境内で「骨董市」が開かれ、多くの客で賑わっていた。皿、銚子、茶器などの陶器。古い着物。ゼンマイ時計などが並んでいた